

【p 36～p 39】 からのえんどう —森はな—

1 資料活用にあたって

- 本資料では、まさともはなも、道徳的に変化している。はなを主人公とした場合、内容項目はB（9）、まさとを主人公にした場合、内容項目はA（1）になる。どちらを主人公にするかを明確にし、主人公の変化を中心に授業を展開することが大切である。

2 資料の読み方のポイント

- ※ 展開の具体例は、はなを主人公（内容項目B（9））と想定したものを示している。）
- 変化するのは：はな（子どもが「はな」になって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：まさとがくれたなかよくならんだふえを見たこと
- 変化するところは：「そっと口にあててふいてみました。」
- ※ 翌日、まさとのそばによってぎゅっとにぎりしめていた手をひらいた時は、はなはもうまさとを許している。

3 読み物資料の素材について

【参考文献等】

- ・ 『じろはったん』 アリス館、1982年
- ・ 『いとおしむ』（森 はな 追悼文集） 追悼文集編集委員会編、森はなをしのぶ・ささゆりの会、1990年
- ・ 『ふるさとの語り部 森はな・人と文学』 森はなをしのぶ・ささゆりの会編、神戸新聞総合出版センター、1997年
- ・ 『森はな—おばあちゃんは児童文学作家になった。—』 姫路文学館、1993年

【参考URL】

- ・ じろはったんの会
<http://jirohati.html.xdomain.jp/>

【訪りたい場所】

- ・ 朝来市立和田山図書館（079-672-1700）
※ 館内には「森 はな コーナー」がある
- ・ 姫路文学館（079-293-8228）

○ 森はなについて

- ・ 養父郡大蔵村（現朝来市和田山町）に生まれる。生家は酒類販売の商家で農業も営み、多くの使用人の子どもたちと分け隔てなく育てられた。7人兄弟の真ん中（姉1人、兄2人、妹2人、弟1人）。両親を早くに失い、兄はニューギニアで戦死。また作品の良き理解者であった長男を1985年の日航機墜落事故で亡くす。人生は苦難の連続であった。
- ・ 兵庫県明石女子師範学校を卒業し、小学校教員となった。学校劇に力を注ぐ。赴任先の高砂市・伊保小学校にて「お祭りに来た兄弟」（1952年）、「峠のお祭り」（1953年）がNHK近畿学校劇コンクール最優秀賞を受賞した。
- ・ 故郷の但馬や播磨で小学校の教師を務めた後、64歳のとき、知的障害のある青年と村人との交流を但馬弁で描いた童話『じろはったん』で日本児童文学者協会新人賞を受賞。80歳で亡くなるまで作品を刊行し続けた。
- ・ 『じろはったん』は、英語（黒崎民子訳）とドイツ語（大崎ドロテーア訳）に訳されている。

4 展開の具体例

- ・ **主 題 名** ・ 友達と仲よく B (9)
- ・ **資料の概要** ・ 学校の帰り道、吹いていたからすのえんどうをとって逃げたまさとを許すことができないはな。お母さんの言葉にもかたくなになっていたはなだが、「ごめん。」の代わりにまさとの手に握らせた笛を吹くことで、気持ちが落ち着いていく。さらに、次の日に会ったまさとの様子を見て、はなはまさとの気持ちを考えはじめる。
- ・ **ね ら い** ・ 手のひらにはなの笛とまさとが作った笛が仲良く並んでいるのをみて道徳的に変化するはなを通して、友達と仲良くしようとする道徳的心情を育てる。
- ・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・ 今日の資料に興味を持つ。	草笛を吹いたことがありますか。
展 開	・ 資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・ 笛を取られた主人公の気持ちを考える。	笛を取られたはなは、いやいやをしながら心の中で何と言っているのでしょうか。 ・ せっかく作ったのに、返してよ。 ・ まさとくんのいじわる。 ・ はらが立つなあ。
	・ まさとをどうしても許せない主人公の気持ちを考える。	涙が止まらないはなはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・ 絶対にゆるしてあげない。 ・ わるいのはまさとくんなのに。 ・ まさとくんなんか、きらいだ。
	・ まさとからもらった笛をそっと口にあてた時の主人公の気持ちを考える。	まさとももらった笛をそっと口にあてながら、はなはどんなことを思っていたのでしょうか。 ・ 笛を作ってくれたのは、仲直りのしるしなんだな。 ・ まさとくん、悪いと思ってくれていたんだ。 ・ いつまでも泣いていたら、だめだな。
	・ 下を向いているまさとのそばに行き、手を開いた主人公の気持ちを考える。	だまったまぎゅっと握りしめていた手を開いたはなは、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・ 昨日はいつまでも泣いて、ごめんね。 ・ まさとくんが謝ってくれたのはわかっているよ。 ・ 一緒に笛をふこうよ。 ・ これからも仲よくしてね。
終 末	・ 感じたことを書く。	感じたことを道徳ノートに書きましょう。

気持ちよく吹いていたからすのえんどうの笛を取られた主人公の心に共感させる。

まさとのお詫びの気持ちに気付かず、どうしても許せない主人公の心を考えさせる。

仲よくならんだ笛を見たことがきっかけとなり、まさとの思いに気付き、友達のよさを感じ始めている主人公の心を考えさせる。

友達のよさをより強く感じ、「まさとくと仲よくしよう」という気持ちになった主人公の心情の高まりをおさえる。